



竣工日 1914年8月20日

ジェームズ館は、専門学校令に基づいて1912年に設置された同志社女学校専門学部の教室棟として建築された。1914年1月9日の定礎式には「教職員生徒一同」が参列し、同年8月20日に竣工した。館名は、アメリカンボードとも縁の深い故D. W. ジェームズ氏の夫人とその子息に由来する。これは専門学部棟建設の必要性についての会議の開催中に、夫人からの寄付の申し出があり、それにより用地取得と建設が可能となったためである。

設計は、先行の静和館(1912年竣工、1991年解体)に続いて武田五一(当時京都芸専門学校教授)が担当、煉瓦造2階建、両翼が前後に張り出したH型をしているなど基本的には静和館のデザインを踏襲しており、両翼のバルコニーや玄関上のアーチといった装飾的なモチーフも見受けられるが、全体としては質実清楚な校舎建築である。2001年に構造補強のための改修工事を行った際も意匠上の変更は極力避け、デザインの保全が図られた。

建物1階にはエントランスホールや学生ラウンジ、スタディルーム、史料室が入り、2階には卒業生ラウンジや、講義演習室、会議室が入っている。同じく武田の設計による栄光館(1932年竣工)とともに2000年11月、国の登録有形文化財に指定され、今出川キャンパスを象徴する景観を形成している。

クラーク記念館(同志社大学今出川キャンパス)



重要文化財 1894年1月30日開館



クラーク・チャペル



1階ラウンジ

同志社大学今出川キャンパスの東端に、クラシカルな塔屋を戴く堂々たるドイツ・ネオ・ゴシック様式のクラーク記念館が建っている。同志社の5番目の煉瓦建築であり、同志社大学のシンボルとして親しまれている。

同志社大学の創立者新島襄がこの世を去ったのは1890年。彼の死を悼む卒業生らが新島を記念する神学館建築のために募金活動を展開していた。その活動をアメリカカンボイド経由で知ったB.W.クラーク夫妻から夭折した息子(B.S.クラーク)の名前を館名に冠し、息子を讃えるタブレットを設置するという条件で1万ドルが寄せられた。そのため、Byron-Stone Clarke Memorial Hallとも呼ばれ、今も、エントランス上部にある欄間にはこの名が刻まれている。

竣工以降、「クラーク神学館」として、主に神学教育・研究に利用されてきたが、1963(昭和38)年の現在の神学館完成に伴い、「クラーク記念館」と改名。阪神大震災を契機に2003(平成15)年から2007(平成19)年まで「修理」「復原」「構造補強」を3本柱に修復工事が実施された。

現在は、教室利用だけでなく、キリスト教主義教育の場として利用されている。また、館内のクラーク・チャペルは結婚式場としても利用されている。